

(様式1)

学校番号 (小060)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立初生小学校運営協議会長

<本年度の目標>

初生小応援団の継続・拡充、一部地域ボランティアの募集

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった

(理由)

・多様な視点の導入

若い委員の新鮮な発想や、教職員だけでは気づかない外部の視点を取り入れることで、従来の学校体制の枠に捉われない変革を意識した熟議が行われた。

・丁寧な合意形成

校長の説明に対し、各委員が自身の立場から確認・質問を重ねることで、方針の背景や意図について深い納得感を得ることができた。

・本質的な課題提起

「粘り強く取り組む子供」という目標に対し、現在の教育環境でいかに実効性を持たせるかといった、現場に即した鋭い意見も交わされた。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった

(理由)

・「初生小応援団」の成果

コーディネーターの尽力により、保護者やOBボランティアが昨年度より増加し、学校側の要請に柔軟に応える体制が構築された。

・教育的効果の実感

地域住民との交流が子供たちの主体性や協働性を育む良い刺激となっており、成長を促す環境が整いつつある。

・組織運営の課題

PTA活動の活性化や、地域全体へ募集を広げるための連絡手段(ICT活用等)の確立など、持続可能な仕組みづくりが、今後の課題の一つ。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った イ 行った ウ あまり行わなかった エ 行わなかった

(理由)

・発信手段の確立

学校ホームページでの資料・議事録公開や「CSだより」の発行など、公的な情報公開体制は整ってきた。

・双方向性の向上

協議会内では率直な意見交換がなされているが、今後は「発信した内容がどう反映されたか」というプロセスの透明化が必要。

・波及効果の検証

情報が地域や保護者にどこまで届き、どのような効果を生んだかを検証する仕組みづくりが、今後の課題の一つ。

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

より充実した学校支援を行うために、学校運営協議会・初生小応援団の活動について、より広くより深く知ってもらおう。